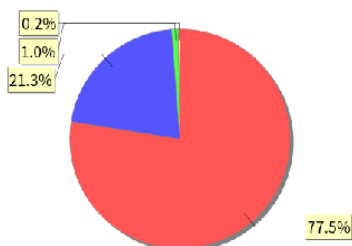


前期授業評価 『学生から教員の方々へ』

令和7年度前期の学生による授業評価を全学科で実施しました。結果のまとめを以下に示します。

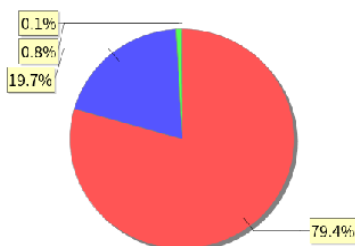
□ 自己評価の結果

授業中のマナーを守って受講しましたか



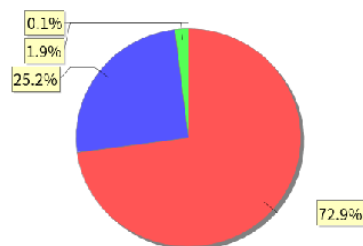
● しっかりできた ● だいたいできた
● あまりできなかった ● 全くできなかった

授業に意欲的に取り組みましたか



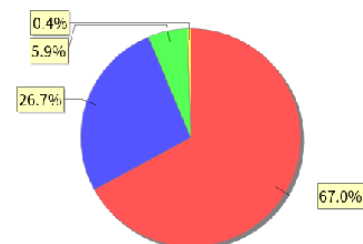
● しっかりできた ● だいたいできた
● あまりできなかった ● 全くできなかった

授業の内容は理解できましたか



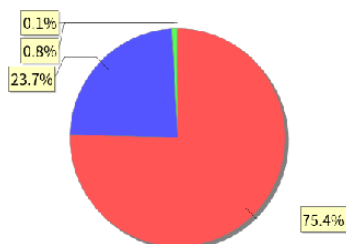
● しっかり理解できた ● だいたい理解できた
● あまり理解できなかった ● 全く理解できなかった

時間外での学修に意欲的に取り組みましたか



● しっかりできた ● だいたいできた
● あまりできなかった ● 全くできなかった

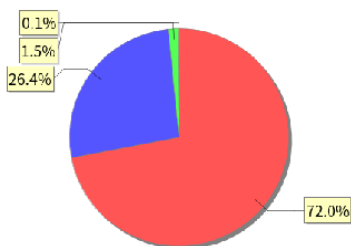
新しい知識や技能を修得できましたか



● しっかりできた ● だいたいできた
● あまりできなかった ● 全くできなかった

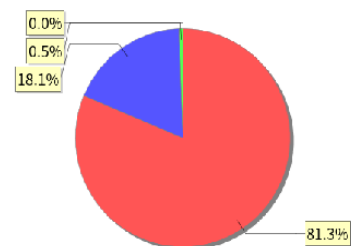
□ 授業評価の結果

授業内でシラバスの説明がありましたか



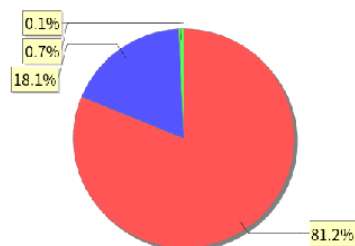
● くわしく説明があった ● だいたい説明があった
● あまり説明がなかった ● 全く説明がなかった

授業の開始・終了時間はどおりでしたか



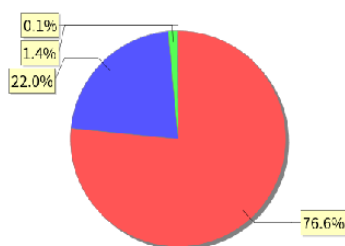
● いつも定刻どおりだった ● だいたい定刻どおりだった
● あまり定刻どおりではなかった ● 全く定刻どおりではなかった

集中するための環境は保たれていましたか



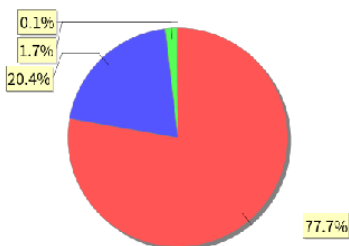
● しっかり保たれていた ● だいたい保たれていた
● あまり保たれていなかった ● 全く保たれていなかった

進度やレベルについてどう感じましたか



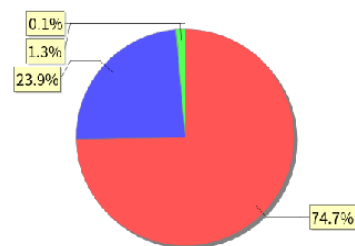
● ちょうどよかった ● だいたいよかった
● あまりよくなかった ● 全くよくなかった

授業の説明はわかりやすかったですか



● とてもわかりやすかった ● だいたいわかりやすかった
● あまりわからなかった ● 全くわからなかった

学生の意欲や理解を促す工夫はありましたか



● とても工夫されていた ● だいたい工夫されていた
● あまり工夫されてなかった ● 全く工夫されてなかった

〈今回の結果からわかること〉

1. 授業評価の実施について

今年度前期の授業評価を実施しました。

- 専門科目と教養科目それぞれで実施
- 自己評価と授業評価に分類

2. 学生による自己評価について

学生による自己評価の結果は、「授業中のマナー」「授業に対する意欲」「授業内容の理解」「時間外での学修に対する意欲」「新しい知識や技能の修得」のいずれの質問に対しても、「しっかりできた」「だいたいできた」を合わせると93%を超えているなど肯定的な評価がほとんどでした。これは、多くの学生が前向きで真面目に学生生活（授業）に取り組んでいることの証であると言えます。

しかし、より一層充実した学生生活を目指すために、「しっかりできた」との回答に焦点を当て、更に昨年度前期と比較すると、「授業中のマナー」は77.5%（－0.6%）、「授業に対する意欲」は79.4%（－1.8%）、「授業内容の理解」は72.9%（－1.5%）、「新しい知識や技能の修得」は75.4%（－1.6%）といずれも低下しています。特に「時間外での学修への取組」については67.0%（－1.9%）と70%を切るだけでなく、「あまりできなかった」と「全くできなかった」を合わせると6.3%（＋0.5%）となっていることから、確かな学力とより高度な技能を身に付けるためにも、「時間外での学修への取組」の改善が課題であると考えられます。さらに充実した学生生活（授業）の実現のためにも、より魅力的かつ有益な指導を行うための継続的な授業改善が求められていると考えられます。

3. 学生による授業評価について

授業評価についても自己評価と同様、いずれの質問に対しても肯定的な回答が98%を超えており、授業に対する学生の満足度が高いことが分かる結果となっています。しかし、自己評価の分析と同様に、質問に対する最も高い評価の結果だけに着目し、昨年度と比較してみると、「説明のわかりやすさ」は77.7%（＋1.3%）と昨年度と比較して向上している一方、「授業の開始・終了時刻」81.3%（－1.3%）、「集中するための環境」81.2%（－1.6%）、「シラバスの説明」72.0%（－4.9%）、「進度やレベル」76.6%（－1.0%）、「意欲や理解を促す工夫」74.7%（－0.5%）といずれも低下しています。このことから、自己評価の結果からわかった課題と同様、より一層の授業改善が求められていると考えられます。

前期授業評価 『教員から学生の皆さんへ』

令和7年度前期の学生による授業評価に対して、教員から学生のみなさんへの回答をまとめました。

専門科目

◆ 科目名（学科名の略 学年）

【幼児教育学科】

◆ リトミック（幼3）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

学生の理解度を常に意識しながら授業を進めていくことに心掛けていくように努めました。質問しやすい雰囲気作りをし、質問には個々に又は内容によっては全員に丁寧にフィードバックを行いました。その結果、受講者みんなの理解度が高まったと思います。

2. 授業評価の結果に対するコメント

選択の専修科目であるため、専門性の高い内容で授業を進めました。学びを深めたい受講者の方にとっては、有意義な時間となったと思います。演習の授業であり、グループワークを多く取り入れ、実践形式で行うため、その日の出席状況で授業の組み立てを工夫しました。そのため、シラバス通りに進められなかった時間もあり、出席している受講者の方には迷惑をかけました。今後は授業展開を改善したり、欠席をしないように促していきたいです。

3. 今後の授業における目標

学生のみなさんにとって学びある授業になるように、みなさんの声を聞き、授業の工夫や改善をしていきたいです。また、最新の情報も伝えていきたいです

4. 受講学生に対する要望

授業は受講者のみなさんと教員が創り上げていく部分もあると思います。前向きな姿勢で受講してほしいと思います。

◆ 幼児と運動・遊び（幼2）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

進度レベル、授業での説明、授業外課題が不十分な面があるとの指摘を受け、授業の組み立て、スライドを活用した説明、Google フォームを活用した授業後の振り返りレポートの改善を図った。体育Iでは、進度レベル、授業の説明の評価項目が高まった。

2. 授業評価の結果に対するコメント

全体的に平均的な評価であったと思います。子どもと触れ合い機会として、学外授業としてレクリエーションイベントへ参加したり、保育実習をイメージした幼児の遊びの指導計画を作成し模擬保育を実践したりと学習内容に難しさがあったと思いますが、どの学生も意欲的に取り組んでくれました。今後もこのような学修機会を大切にしていきます。

3. 今後の授業における目標

保育学生として、運動遊びのレパートリーを増やし、また子どもたちと楽しく元気に遊べる実践が積める機会を大切にしていきます。また、保育実習の部分実習に役立つ、保育活動の指導案を作成できる技術を身に付けられるよう授業内容を充実させます。

4. 受講学生に対する要望

道具を使った運動遊びの計画・実践することで指導案の書き方や運動機能の発達の促し方が学べた、ボランティアで子どもたちと遊べて楽しかった等のコメントがありました。今後も、みなさんの実践力がより高まる授業ができるような授業改善に努めます。

◆ 障がい児保育Ⅱ（幼2）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

該当なし。

2. 授業評価の結果に対するコメント

学生に課題を与え、その課題に対し、自ら調べ、まとめ、プレゼン発表をするという授業形態をメインに行った。当初は、学生が、課題を達成することができるかやや不安であったが、互いの発表を見る中で、学生自身が工夫を加えるなど、お互いを高め合う姿をみることができた。授業評価のなかでも、この授業形態が良かったとの意見が沢山見られた。また学生の発表を補完する形で、補足説明を行ったが、より理解を深めることにつながったのではないかと考えている。

また授業の中で、保育に活かせる手品を毎回一つずつ、提示したことも、学生の興味関心を高めることにつながったのではないかと考えている。今後もより一層の工夫を心掛けたい。

3. 今後の授業における目標

今まで、他大学で非常勤講師として教壇に立つことは幾度も経験してきたが、その都度、学生のニーズや力量も異なり、それに応じた授業展開を工夫してきた。こうして本学での半期を終えてみて、本学の学生が求めているニーズや個々の力量も概ねわかってきた。そのため、本学の学生にはどんなニーズがあるのか、またどんな授業の進め方が適切なのかといった観点より、授業の展開を工夫するなど、授業開発をしていきたい。また、現代の社会は、日々大きく動いているため、常に新しい情報を得るよう自身のアンテナを高くし、得た新しい情報も適切に学生に伝えていきたいと考えている。そうすることで、学生が自ら学びたいという気持ちを育てていきたい。

4. 受講学生に対する要望

自分の選んだテーマに対して、何を調べれば他の学生に伝わるのか、どんな伝え方をすればよいのか等、工夫しながらプレゼン発表の資料を作成することができた。また発表当日は、自身の経験を話したり、保育士としてできること等、自分の伝えたいことを工夫しながら発表する姿が随所に見られた。また、他人の発表を聞いて、良い部分を自身の発表に取り入れたり、また逆に改善したりする等、学生同士で学び合う姿も見られた。その姿から、学生にとって良い学びの機会になったのではないかと強く感じた。ただ講義を聞くという受け身の姿勢ではなく、自らが主体的に参加し、学ぶことで真の力の獲得につながっていく。今後もここでの学びを生かし、自ら疑問をもち、それについて探求するという姿勢で、授業に臨むことを期待する。

◆ 発達心理学（幼1）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

学生の集中力の持続時間を考え、教える内容と教育方法の配分を改めて意識して授業構成を考えた。教員の説明が90分間続くことが無いよう、個人ワークやグループワーク、Slido(インターネット経由で匿名の書き込みが出来るツール)を用いた意見交流、動画の視聴などを組み合わせ、集中力を持続したままで多くの活動に取り組めるよう配慮した。授業後のミニッツペーパーには、これらの工夫に対する肯定的コメントが多く寄せられた。

2. 授業評価の結果に対するコメント

どの項目の得点も高く、特に説明に対する評価はとても高かったため、分かりやすい授業が出来たようだった。シラバスに対する得点は全体の中では一番低いものの、第1回目の授業で資料を配付し時間を取ってしっかり説明する時間を設けている。次回からは毎回シラバスを提示し、全体のどの部分を扱っているかを示すようにしたい。自由記述のコメントからは、授業で扱った内容そのものや授業方法、話し方など多岐に渡って満足度の高い様子が具体的に書かれていて、多くのことが学生に伝わったことを実感した。

3. 今後の授業における目標

これまで、「わかりやすい授業」を目指して授業内容を考え資料を作成して来たが、学生自身が問いを深めたり自らの力で答えを見つけたりできるよう、余白のある授業を提供することも考える。端的な知識の伝達だけではなく、答えのない問いを投げかけて、学生同士で意見交流をしながら問いのまま持ち帰るような授業を取り入れてみたい。

4. 受講学生に対する要望

「おぼえる」「分かる」だけではなく、分からないことを分からないまま漂わせて時間をかけて考え続けるような学びも、ぜひ経験して欲しいです。

◆ 幼児と環境（幼2）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

写真、映像などの視聴覚教材や実際の自然物に加え、遊びや生活の具体的な事例、さらに幼児が活動や遊びの場で関心を示したり発見したりする出来事について学生がイメージしやすいように資料を提示しました。学生は、自然や多様な保育の情報への関心を深め、適時に示すテキストや指針・要領の内容を参考にしながら、課題に対して自分の考えを整理し、グループ発表や掲示物の作成へとつなげることができていました。

2. 授業評価の結果に対するコメント

学生自身の直接的な体験やグループ発表を通して子どもが環境に自発的に関わることについて考察することができていました。その中で、保育者の知識や感性、配慮の大きな影響や重要性を理解し、発表や掲示物の作成を通して表現することもできていました。また、子どもが周りの環境に対して、どのように興味・関心を深めていくのか、主体的な関わりがもつ意味を理解し、さらに保育者の役割について考察できるようになっていった点も成果ではないかと思います。

3. 今後の授業における目標

意欲的にグループワークや直接体験を通して、保育技術力や環境構成を考える力を向上できるよう、場面や年齢を詳細に設定して学生自身が状況判断した発表内容を増やしていきたいと思います。計画性をもち、持ち物や片付けなどについても学生が考えて行えるように示していきます。

4. 受講学生に対する要望

意欲的に楽しく学ぶ学生が多くみられ、その姿勢は、子どもと一緒に遊び、活動する中で共感する保育者の姿につながっていきます。これからも意欲的に直接体験を通して学びを深めてください。そして普段の生活の中で何気なく過ごしている身近な環境について考えたり、様々な事象を楽しんだりする気持ちを忘れずにいてください。

◆ 教育方法論（幼2）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

教育方法論の講義で、前回は ICT に関する内容に偏りがあったことを学生のフィードバックをうけ、ICT の比重を減らし、内容の精選を行った。それにより、自身の講義内容を改めて見直すきっかけとなった

2. 授業評価の結果に対するコメント

昨年よりも教材を作成する時間をよりおおく設けたことにより、学生のポジティブなフィードバックが増えた。就職後も使える教材や知識・技能を昨年より身につけられたというフィードバックも多く、引き続き継続していきたい。

3. 今後の授業における目標

理論はもちろんのこと、実際に保育士になったとき実践できる力も身に付けられるように、講義を構成していく。

4. 受講学生に対する要望

これまで通り、一生懸命学びに向かってください。

◆ 造形・基礎（幼1）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

昨年度の意見を参考に、説明を少し短くして、作る時間を増やしました。学生は集中して取り組めるようになり、「使ったことない道具を使えてよかった」「保育に役立つと思った」という声もありました。

2. 授業評価の結果に対するコメント

「楽しかった」「自信がついた」という声が多く、安心して表現できる場になったと思います。ただ「もっと時間が欲しい」という声も多く、より工夫が必要だと感じました。

3. 今後の授業における目標

制作時間をしっかり取りつつ、新しい材料や道具に挑戦できる課題を工夫します。仲間の発想を認め合う時間も作り、保育にも役立つ授業にしたいです。

4. 受講学生に対する要望

作ることを楽しみながら、子どもの気持ちを考えて取り組んでください。時間を意識し、仲間の意見を大事にしながら工夫して活動してほしいです。

◆ 保育指導計画の方法（幼2）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

前回の改善計画では、学生が実際の現場を意識した指導計画の作成力を身につけられるように「具体的な書き方の提示」と「演習課題の工夫」を重点に取り組みました。その一環として、指導計画作成に必要な要素を分かりやすく整理して提示し、学生自身が練習しながら理解を深められる流れを導入しました。また、「AsobiStock」を導入し、学生が遊びのアイデアを共有し合えるようにしたことで、計画作成の発想を広げる効果がありました。授業評価の自由記述からも「週案や日案を実際に書いてよかった」「遊びストックが実習に役立ちそう」といった肯定的な意見が寄せられており、改善が一定の成果を上げたと感じています。

2. 授業評価の結果に対するコメント

今回の授業評価では、平均点・各項目ともに全学科および所属学科の平均を上回る結果となり、授業運営が概ね学生に受け入れられていることを確認できました。特に「進度レベル」「シラバス」の評価が高く、内容の分かりやすさや進行の適切さが評価された点は大きな成果と感じています。一方で、自由記述からは「指導計画の大変さを実感した」という声が多く、学びの深まりと同時に課題感も生まれていることが伺えます。これを成長の兆しと捉え、授業での学びを実習や保育現場にどう結びつけるかをさらに意識できる授業内容にしたいと感じました。

3. 今後の授業における目標

今後は、学生が「計画を作る→修正する→再構築する」という一連のプロセスを経験できる授業を意識していきたいと考えています。現場では指導計画を一度で完璧に書き上げることは難しく、むしろ振り返りや改善を繰り返す中で計画力が育われます。そのため、授業の中で部分的な計画を作成させ、それに対して教員や学生同士でフィードバックを行い、再構築する内容を取り入れたいと考えています。また、AsobiStockのような共有の仕組みをさらに充実させ、互いの発想を参考にしながら実習や将来に活かせる「引き出し」を増やせるよう支援していきたいと考えています。

4. 受講学生に対する要望

今回の授業を通して、多くの学生が指導計画の書き方や実習に役立つ遊びのアイデアを得られたと感じられたことは良かったです。一方で、皆さんが「難しい」と感じた部分は、現場で必ず直面する課題であり、それを学びの中で体験できたこと自体が大きな成長につながっています。今後は、授業で学んだ計画作成の手法を自分自身の言葉や経験に置き換え、より具体的に应用できるよう意識して取り組んでください。また、指導計画は一度で完璧に仕上げるものではなく、仲間や先生方と意見を交わしながら修正・改善を重ねることで確かな力がつきます。授業での学びを実習や現場で積極的に試し、修正されることや失敗を恐れず挑戦していく姿勢を大切にしてください。

【デザイン美術学科】

◆ デザインワーク基礎（デ1）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

全般的に進行速度に注意を払った。結果、前年度よりも「わかりやすかった」という評価が伸びた。尤も依然として進行速度に課題が残った。積み上げ型の「演習」タイプの授業については「最大公約数」を重視せざるを得ず、改善計画にあった「あまねく全員の理解」が得られなかったことを反省点としたい。途中欠席者など、当該学生らについては授業後(外)等の「手当て」、また各自わからなかったことについてはメモを取らせ、授業後にバックアップできるなどの仕組みを考えたい。

2. 授業評価の結果に対するコメント

授業内での反応や提出作品をみるかぎりにおいては、総じて演習内容を理解していると想定していたのだが、全体評価は学科平均より低かったことを、率直に課題と感じている。マイナス要因の「進度レベル」「評価」については、科目の魅力度も影響しているものとする。本科目は、クリエイティブ全般に必須の知見と技術とを身に着けられる科目であるので、その重要性を、魅力に置き換える方法(課題の工夫など)を、ひきつづき考えていきたい。

3. 今後の授業における目標

最大公約数の理解を基本に、あまねく全員を満足させる授業をこころがけたい。とくに授業内外において、デザイン演習にマッチさせた「PDCAサイクル」を組み込み、学生が知見・技術を修得する際の確実な「行動変容」をとらせる工夫を凝らしたい。

4. 受講学生に対する要望

自立と自律とをうながしたい。好きこそものの上手なれ(努力よりも夢中！)。

◆ 絵コンテ演習（デ1）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

前回の目標は、『ナレッジマネジメントの工程の可視化をさらに改善し、課題に取り組む必然性を共有し合い、リソースを活かし合うことのすばらしさを伝えたい』です。それにより『組織力を生かした有益な活動ができることを実感してほしい』でした。前期は、グループワークはあまりなく個人ごとに課題に向き合い、問題解決することが主でした。社会に出てからは、組織の一員として個の能力を活かすことになるため、仕事の構造となる業務や職務の体系的な作りや仕組み、およびその構成要素と関係性についての解説を増やし、ナレッジマネジメントの必要性に気づきの生じる工夫をしました。グループワークを授業内で行うことが出来なかった為、効果は読み取りにくいですが、作品を作る目的とその方法について、意図がつながる学生が増えたため、よいナレッジマネジメントへの手がかりが形成されたと思われます。

2. 授業評価の結果に対するコメント

基礎科目のため、前半の導入は、「映像制作の工程/講義」「映像調査や分析」や「絵コンテの入門的な演習」に取り組みました。それにより、今までの映像視聴体験と専門知識・技能とを結び付け、映像表現のすばらしさと可能性に気づいていただけるように努めた。設問『この科目を受講して良かったところを自由に書いてください。』の回答において、「色や構図について学べ、絵コンテをかくのは初めてだったけれどかいてみると楽しくて、何度も同じキャラクターをかいたり、色んなそのキャラクターらしいポーズをかくので、絵をかく練習にもなりました。」「映像、絵コンテに関する基本的な知識を身につけることができた。物語や演出の両方の面でどのような工夫をしていくべきか、課題に向き合う力が高められたと思う。」などの回答から、一定の成果を確認できました。引き続き意識を高く持って取り組みたいと思います。

3. 今後の授業における目標

○ナレッジマネジメントの工程の可視化の改善をする。ポイントは以下3点。

「何を共有すべきか」「メンバーの暗黙知や必要な知識の調査方法と活用フォーマットの改善」「可視化されたフォーマットの活用とその活用方法の改善」

○課題に取り組む必然性を共有

現状と理想とのギャップを埋めるために、課題を解決することが不可避であると認識する状況をわかりやすく指し、強い動機づけや必要性の感覚を生み出すよう努めます。

○リソースを活かし合うことのすばらしさを説明

個々の持つ能力や資源の掛け合わせで「相乗効果」を生み出し、単独では達成できない大きな成果や新たな価値を創造できること。これにより、リソースの共有による効率化、多様な知見の獲得、問題解決能力の向上、そして参加者全員の成長とモチベーション向上につながることをよりよく伝える。

4. 受講学生に対する要望

「発見」「考察」「行動」を繰り返し、気づいたことを自らの体験により、自身の能力となるよう、失敗を恐れず様々なことに挑戦してください。美術活動から栄養を得て、自身へも他者へも豊かな心で向き合い、感動したこと、学んだことを活用していただければと思います。

◆ CG概論（デ1）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

担当する演習「CGキャラクター基礎」で好評のCG制作を、講義では、CGの知識に取り組んだ。CGの面白さが、学生コメントから伝わってきた。

2. 授業評価の結果に対するコメント

「学生の生の声」に、一つひとつ届いたことを実感。

【学生コメント】

・CGの仕事を知ることができたり、このアニメはこう作ってるのかと驚いたり、毎時間驚きがあった。楽しかった。

・CGの就職先に進んだ先輩方をたくさん例に挙げてくれたことによって、よりCG業界のことを知れました。

・アニメやゲームについて全く知らない状態から授業を受けていくうちにCGがどのように使われているかなど学ぶことが出来てとても楽しかった。特にアニメの映像を流して実際の制作過程やアニメーターさんのお話など、ここでしか聞けないような内容が沢山あった。

【改善】

プロジェクター使用時、暗いと眠くなってしまうことも。カーテンの開け閉め工夫したい。

3. 今後の授業における目標

ゲーム、アニメCG「学べてよかった」これからも、その気持ちを大切にしたい。

4. 受講学生に対する要望

放課後、作ってみる。お勧めです。「作る前・途中・できたとき」声かけてください。初歩からはじめ、できることが増えていきます。

◆ デザインワーク基礎（デ1）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

該当なし。

2. 授業評価の結果に対するコメント

自己の取り組み・授業の取り組みともに全学平均、学科平均を下回る結果になっている。特に授業の取り組みの「進度レベル」と「説明」の項目の評価が低い。コメントから授業スピードを早く感じている学生が多いことがわかる。Adobe illustrator を使用した課題制作に関して、難易度に対してオリジナルテキスト（レジュメ）での解説が不十分だったと感じる。教員による実演でレジュメに無い部分を解説していたが、その速度が早く、初めてソフトを扱う学生は追いつけていなかったと想像する。手順が分からない人がいないか口頭で呼びかけ、いないことを確認して進めていたが、多くの同級生の前で分からないことを教員へ意思表示するのが難しい学生もいたかもしれない。配慮が必要であったと感じる。

3. 今後の授業における目標

受講生全員が Adobe illustrator の基本操作を理解し、作品制作に応用できる力を身につけられる授業を設計する。Adobe illustrator と photoshop を別々の課題でレクチャーしていたが、複合的な課題に変更する。課題の複雑さ、難易度を下げ、工数を減らして、デザインを練る要素を追加することで「初めてソフトを扱う人でも面白い」授業を目指す。教員による実演は、スクリーンに投影するかたちで共有していたが、Google meet を使用して手元のモニターで確認できるようにする。学生の進捗確認は、meet のスタンプ機能や挙手機能を活用する。時間外学習のために制作工程を動画にするなど、eラーニングによるオンデマンド対応を検討する。

4. 受講学生に対する要望

個別対応時にはメモを取るなど、同じところで何度も躓かないよう対策する。レジュメの紙出力は、各自の判断で授業時間外に行う。

【音楽総合学科】

◆ 管楽器・業界研究Ⅱ（音2）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

説明だけではなくカタログを活用しカタログを見ながらの説明や自身で調べる時間を増やしたことによって知識をより増やすことができた。

2. 授業評価の結果に対するコメント

学生からのコメントで1年次の内容よりさらに深い管楽器の知識習得できた等、1年次の学びの応用として発展できたので良かったと思う。来年度へ向けて内容を今一度見直しより学生にとって身に付く講義内容にしていきたい。

3. 今後の授業における目標

作成した資料の文字の大きさ、スライドの枚数を昨年度より見直し作成し直したが、それでも文字の量が多いと指摘があった。来年度に向けて再度見直しを行いたい。

4. 受講学生に対する要望

卒業後必ず必要になる知識なので積極的に調べる習慣を付けてほしい。

◆ 音楽総合特講Ⅲ（音２）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

前回の授業評価で指摘があった点（パワーポイントの進み方が早い時がある、見えづらいスライドがある）について改善し、学生の様子を見ながらすすめるようにしたところ、今回は進み方が早すぎるというコメントがなくなった。

2. 授業評価の結果に対するコメント

音楽総合学科教員全員が交代で担当してそれぞれの分野について講義、演習を行ったが楽器店就職に向けて必要な知識を得ることができたという回答が得られていてよかった。

3. 今後の授業における目標

自身の担当する LM 楽器の演習内容について、学生たちが一通り「できた」と実感してもらえるような内容を今後も精査してゆきたい。

4. 受講学生に対する要望

講義、演習、フィールドワークと様々な内容の授業のため欠席するとその授業内容を取り返すことが難しい。やむを得ない欠席もあると思うが学生からも、出席できなかった内容について意欲的に取り組んでほしい。

◆ 音楽理論（音１）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

この音楽理論Ⅰの授業は今年度から担当することになったため他の科目の授業についてですが、マンツーマン指導の授業での各受講者の時間配分について、授業の組み立てや指導方法を改善し、時間配分に差がないように毎回心掛け授業を実施しました。また、課題に繰り返し取り組む中で、毎回丁寧な説明を行い、課題の理解に繋がりました。

2. 授業評価の結果に対するコメント

学生の自己の取組では、授業中のマナーを守り、概ね意欲的に取り組むことができたとの評価でした。毎回の授業でも、学生一人ひとりの真摯な姿勢を感じることができました。反面、授業内容の理解や、知識・技能の修得等は評価が低く、この科目の学修内容の難しさが表れた結果ではないかと思うとともに、学生個々の理解・知識修得のために指導方法を見直していきたいと思いました。授業の取組では、学生の自己の取組の授業内容の理解や知識・技能の修得にも繋がる、授業の進度・レベルや説明の評価が他と比較すると少し低い結果でした。個々に理解度・習熟度が異なるため、一斉授業の難しさを感じながらも十分な説明等を心掛けましたが、より丁寧に説明・解説し、理解に繋げていく必要があると感じました。

3. 今後の授業における目標

学生にとって初めて学修する内容や高度な内容が多いと思いますので、各内容をより丁寧に説明し、学生一人ひとりの理解度や進度を確認しながら授業を行っていきたいと思います。

4. 受講学生に対する要望

この科目は音楽に携わる人にとって必要不可欠な科目です。難しい内容かもしれませんが、知識を一つずつ確実に積み重ねていくことで理解が深まっていきます。前期に学修した基礎知識の修得・理解を前提として、後期の授業では理解の定着・応用となっていきますので、前期の学修内容を含めて理解ができないことがあれば、授業内外で遠慮なく質問してください。音楽理論の理解を深めて、それぞれの音楽活動がさらに充実したものになるように、引き続き前向きに取り組んでほしいと思います。

◆ 吹奏楽（音１・２／幼１）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

昨年と教員の体制も変わり、また一から試行錯誤のなか授業を行った。自分が学生の立場ならどうありたいかを常に考えるようにした。また、なるべく多くの学生とコミュニケーションをとりながら、学生にとって有意義な時間となるよう、工夫をしながら行っている。他教員からも、吹奏楽の演奏を聴いて、「学生が楽しそうに生き生きと演奏しているように感じた」という声をいただいたことから、良かったのかなと実感できた。

2. 授業評価の結果に対するコメント

概ね、充実感を感じながら演奏できていることがわかりホッとした。

3. 今後の授業における目標

後期は本番が立て込んでおり、学生もかなり大変だと思う。私自身もパンクしそうではあるが、なるべく計画的に指導をする。また、学生の立場になって考えることを忘れず、演奏することを楽しみ、充実感のある本番を迎えられるよう、日々の指導を心掛ける。

4. 受講学生に対する要望

後期は本番が立て込み、楽しみと不安でいっぱいだと思います。良い演奏ができれば、聴いてくださる人にも自分たちにも大きなパワーとなります。大垣女子短期大学ウインドアンサンブルのチーム力を磨き、一つ一つの本番と丁寧に向き合っていけるよう、一緒に最善を尽くしましょう！。

◆ グレード対策Ⅰ（音2）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

リペアに関する授業は毎回時間外学修の評価が低い傾向にあるため、今期は次回までの課題をかなり細かく指示しました。結果は相変わらず低めな評価でしたが、時間外学修をしっかり行っている学生と、全くしない学生がいるので、仕方がないのかもしれませんが。グレードプレ試験受験者は、夏季休暇期間も学校で作業をしており、十分に時間外学修ができていると感じます。

2. 授業評価の結果に対するコメント

「時間を意識して作業ができるようになった」「技術をより高めることができた」とのコメントが多く、学生自身も技術の向上を実感できていることを非常に嬉しく感じます。

3. 今後の授業における目標

教員が一人なので確認の時間が長くなる、とのコメントがありました。非常に難しい課題ではありますが、時間がかかりそうな場合は授業時間外での対応をする、可能な範囲で複数の教員で確認を行うなど、なるべく学生を待たせないように進めていきたい。

4. 受講学生に対する要望

グレード対策は前期のみの科目ですが、ヤマハ技術評価は11月に実施されます。後期も授業時間外にしっかりと反復練習を行い、作業時間の短縮と技術の向上に励んでください。授業時間外でも技術評価や指導などの対応はしていますので、気軽に声をかけてください。

【歯科衛生学科】

◆ 病理学（歯1）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

文字が小さくて見にくい。あるいは板書を消すのが早いなどの指摘があった。通常、プロジェクター投影を行うため、黒板の両端に板書することが多かったが、窓際にホワイトボードを設置し、それに板書することにした。

2. 授業評価の結果に対するコメント

授業内容については概ね満足しているようであった。

3. 今後の授業における目標

学生が集中を切らさないようにする工夫や翌日に復習テストを実施するなど、授業内容の理解度を高める工夫を行う。板書の文字が見やすいような工夫を行う。

4. 受講学生に対する要望

期末試験前に慌てないように、十分時間をとって試験勉強は行ってください。疑問点等は早めに質問してください。

◆ 解剖学Ⅰ（歯Ⅰ）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

解剖学ではマクロ解剖だけでなくミクロ解剖の理解も重要であるが、顕微鏡実習を行うだけのマンパワーも機材も十分ではない現状で学修させるのは困難であるため、バーチャルスライドを用いた講義を取り入れることを実験的に行った。しかしながら、結局学生に個人アカウントを与えて学生自身でバーチャルスライドを使用するような環境でない限り効果は薄い（自分で操作しないと理解に繋がらない）ことが明らかとなったため、結果的には効果はほとんどなかったと思う。国家試験の出題割合を考えてもこの分野に力を注ぐくらいならマクロ解剖の理解をより深めるためにマクロ解剖用の3Dソフトの個人アカウントを与えたほうが効果は大きいであろう。

2. 授業評価の結果に対するコメント

昨年以上に3Dソフトを用い、より深い人体構造の理解のために工夫したつもりであるが、思っていた以上に3Dソフトの使用は有効であったと感じた。

3. 今後の授業における目標

昔とは違い、3Dソフトが3000円/1アカウントで入手でき、しかもスマートフォンで動作する時代である。自分が学生の時にこれがあればどれほど学修がはかどったことだろうかと思う。これを利用しない手はないのだが、残念ながらそう思っているのは教員だけである。そもそも解剖学に興味がないとこのような3Dソフトを自在に扱うのは困難であるし（基本的な解剖学用語を覚えていることが大前提であるから）、そう考えると現在のやり方が一番よいのか、とも思う。今後はミクロ解剖の分野をデジタルで学修する機会について考えたい。

4. 受講学生に対する要望

解剖学は、医療系資格を目指す学生にとって基礎となる重要な科目です。範囲は膨大ですから自分から興味をもって学修することが大切です。予習復習をしっかりと疑問点は放置することなく積極的な姿勢で臨んでください。

◆ 微生物学（歯Ⅰ）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

教科書の要約版として、わかりやすい資料を作成して配布している。

2. 授業評価の結果に対するコメント

話がわかりやすかったや、プリントが見やすかった、理解が進んだとの意見が大半だったが、一部の意見として講義の進行が速かったとの意見があった。学生自身の理解力が様々なので、どの進度で講義を行っても、全員が満足することはない。過去の講義で説明した箇所は、ある程度わかっているものとして進めていかないと国家試験の出題範囲や必須の課程が終わらない。一方で、丁寧に何度も説明しないと結局知識が身につかないというジレンマにかられる。

3. 今後の授業における目標

途中での知識の確認が必要と感じ、15回の講義の中で、何度か小テストなどを入れて、来年度からは自宅での学習時間を課していきたいと思う。

4. 受講学生に対する要望

この講義に対して、たくさんの意見を書いてくださっていることに感謝。講義に対して、自由に意見を述べられる環境をつくるようにしているので、今後も自由で闊達な意見を述べ、知識と知性を磨く努力をしてほしい。国家試験の受験勉強で、困らないような講義にしたので、2年後の受験の際には、この授業資料を紐解いて、学力向上に努めてほしい。

◆ 歯科衛生士概論（歯1）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

授業改善効果として、1つは、集中力向上と学習効果の深化です。穴埋め式のプリントを導入し、授業中に内容を書き込みながら学習する形式に変更してから、これにより、学生は授業により集中できるようになり、「穴埋め式のプリントで、授業中書きながら覚えられた」というコメントが寄せられ、内容の定着に繋がったと実感しています。もう一つは、歯科衛生士の魅力理解促進として、1年生を対象に、歯科衛生士という職業の魅力を伝える授業を強化しました。その結果、学生からは「歯科衛生士についてより理解できた」という感想が寄せられ、今後の授業や実習に対するモチベーション向上に貢献できたと考えています。

2. 授業評価の結果に対するコメント

パワーポイントと配布資料の内容にずれや間違いがあり、学生が理解に苦しむ場面があったこと、反省する点です。また、配布資料の変更が、学生の一部の人たちには、戸惑いに繋がってしまったことについては、今後は、資料作成時のチェック体制を強化し、内容の統一性を徹底していけるようにしていきたい。

3. 今後の授業における目標

反省点である、配布資料の変更が、学生の一部の人たちには、戸惑いに繋がってしまったことについては、変更が生じる際には、その理由と箇所を事前に明確に伝えるように徹底していきます。また、変更点に関する質問や疑問を気楽に発言できる機会を設けて、不安を解消するように努めていきたい。引き続き、今後も歯科衛生士についての魅力を伝え、学修意欲を高められるような授業を続けていくために、具体的には、学生からのコメントや質問に耳を傾け、学生の興味、関心や疑問に寄り添った授業をしていきたいと考えております。

4. 受講学生に対する要望

この授業では、学生の学習をサポートするために教科書を基本として説明を進めています。口頭での説明の際には、教科書の該当ページや内容を具体的に指示していますので、ぜひ授業中に確認してください。教科書は、皆さんが授業内容を「自分のペースで理解し、繰り返し試せる」ための大切なツールです。授業中にすべてを完璧に理解することは難しいかもしれませんが、教科書があれば、後からでも復習し、知識を定着させることができます。また、穴埋め課題なども教科書から解答を導き出せるよう工夫しています。皆さんが教科書を最大限に活用し、この授業で多くの学びを得られることを期待しています。

◆ 保存修復学・歯内療法学(歯科2)

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

該当なし。

2. 授業評価の結果に対するコメント

できるだけ見やすいスライドを作成し、丁寧な説明を心がけて講義を行った。その甲斐あって「自己の取組に対する評価」の5項目、「授業の取組に対する評価」の6項目すべてで全学および学科の平均以上の点数となった。また、学生からのコメントでは「スライドや授業がわかりやすかった」とのコメントがあり、講義の工夫の成果があったと思われる。

3. 今後の授業における目標

前述したように授業評価はすべての項目で平均以上の高評価で、学生からのコメントでもネガティブなものはないため、安心して手を抜かないように今年度と同様の講義を引き続き行っていきたい。

4. 受講学生に対する要望

授業中の課題を全員が一生懸命取り組んでくれました。講義はできるだけ寝ないように聴講してほしいです。

◆ 歯周病予防技術法Ⅰ（歯1）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

技術を修得するには練習を重ねていく必要があるため、授業時間外でも練習するように促した。練習したものがあっているか気軽に聞けるように、クラスルームから動画提出してもらった。提出した動画を確認し、コメントを返した。任意としたので提出する学生は少なかったが、実技試験ではある程度理解している学生が多いと感じた。

2. 授業評価の結果に対するコメント

設問13の受講してよかったところのコメントがたくさんあり、嬉しく思う。分かりやすく学ぶことができたことや成長したことなどが記載されていたが、自己の取組に対する評価がコメントに反し低く感じた。もっと自信を持って、意欲的に繋げられるようにしたい。

3. 今後の授業における目標

学生が意欲的に取り組み、自信を持って実習などできるようにしたい。

4. 受講学生に対する要望

授業だけでは、修得できないのでたくさん練習してもらいたい。

◆ 地域歯科保健活動Ⅱ（歯3）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

該当なし。

2. 授業評価の結果に対するコメント

前任者が退職され急遽引き継ぐことになった。しかもコロナ禍のため中断していた小学校での臨地実習を10年ぶりに復活させる運びとなり、これまでの手続きが全く分からない中での進行であったため、学生の理解度や反応が気になる場所であったが、評価を見ると学生の満足度も高い傾向にあり安心した。

3. 今後の授業における目標

集団指導を行う科目になるため、学生がグループで協力して進めていく必要がある。その際のグループ分け役割分担、信仰のロードマップなどが重要となってくることが今年度担当することでより理解できた。今回の経験を今後に生かしていきたい。

4. 受講学生に対する要望

どの授業にも言えることだが、能動的に授業参加することで理解につながるため積極性を持ってほしい。

◆ 診療補助基礎Ⅰ（歯1）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

今年度は歯科衛生学科で相互実習を行うために、実際に口腔内には触れずに相互実習の一連の流れのロールプレイを行った。実施したことにより、学生がその後の本科目や他科目での相互実習をス

ムーズに行えるようになった。また、様々な種類のバキュームに触れてみるといった応用編の授業を行った、実際の臨床で使用する状況を設定したことにより、将来歯科衛生士になり診療補助を行う姿を想像できたのではないかと考える。

2. 授業評価の結果に対するコメント

自己の取組に対する評価でマナーの部分が強く、授業内でも身だしなみ・時間、期限を守ることがを繰り返し指導した結果ではないかと考える。厳しいとの声もあるが、今後も時代に合わせて指導していきたい。また、知識技能修得については、歯科衛生士として業務を行うにあたり重要になってくる技能に関して授業内で繰り返し復習を行ったことが 3.8 という結果につながったのではないかと考える。

3. 今後の授業における目標

実習科目は技能優先と考えるため。実習時間については一人当たりの時間が多くなるように時間を確保したい。デモ動画などを作成し技能の確認を自宅などで復習できるよう、ICTを積極的に活用していきたい。

4. 受講学生に対する要望

身だしなみ、時間・期限を守るなど、臨床（社会）に出るにあたって当然のことです。やるときはやる、休むときは休むメリハリをつけて実習をしましょう。教員の話はしっかり聞きましょう。自分で判断できない時は、必ず教員に確認してください。授業でわからないことがあれば、その場で聞くか授業後に質問しに来てください。わからないことをそのままにしないように。

教養科目

◆ 情報科学（教養）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

情報科学（教養）において、学生個々の演習の進捗状況を踏まえて、課題提出設定の時期や内容の補足等を加えるなどして、意欲的な学びにつながる時間的保障ができるようにした。また、個に応じた援助にも対応できるように配慮しながら授業の充実を図ることができた。情報モラル・情報セキュリティに関しては、テキストの事例はもちろん、今で起きている事例を取り上げながら最新のセキュリティへの対応力が身につくように心がけて授業を展開することができた。

2. 授業評価の結果に対するコメント

テキストを活用して情報セキュリティの学修及び文書作成、表計算、プレゼンテーションの各ソフトウェアの基礎的なスキルを身につけることを目標とした演習中心の授業から、学生一人一人が意欲的に取り組み、着実に学修成果を上げることができ、よい授業評価を得ることができた。毎時間実施したタイピング練習からスキルアップを実感した学生が多く、授業振り返りのコメントからも、演習内容を含め、学びの充実を実感できている学生が多かった。しかし、個々の演習で学修進度に差がみられたので、個への対応も含めて今後の改善点としていきたい。

3. 今後の授業における目標

実社会に出た時に役立つスキルが身につくように、演習を通して一人一人のスキルアップを目指すことを継続していきたい。また、個に対応した支援の充実を図るとともに、授業の工夫及び改善をすすめながら、個々の学びの充実感を高めていく。情報セキュリティの学修については、引き続き最新の事例を紹介しながら、セキュリティへの意識の高揚を図っていく。

4. 受講学生に対する要望

テキストやUSBメモリ、参考資料等の忘れ物があると、学修や演習に遅れが生じるので、準備を怠らないようにしてほしい。タイピング練習の時間を毎回設定したことで、多くの学生がスキルアップを実感できていたので、時間的余裕のある時にいつでも継続して取り組みようにしてさらなる向上に

期待したい。講義や演習でのわからない点は、仲間に尋ねたり積極的に質問したりして解決してほしい。

◆ 外国語コミュニケーションⅠ（教養）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

一人一人の学習状況に十分配慮し、各活動の時間を確保すること（最後の学生が書き終わることを確認する）、英語に対する苦手意識や自信のなさを軽減するための配慮をすること（全体に問う前にペアで確認する時間を設けること）、分かりにくいと感じる点については板書して説明すること等を心掛けた結果、説明のわかりやすさ、苦手意識の軽減等について言及する学生が増加した。

2. 授業評価の結果に対するコメント

少人数の授業の方が評価が高いのは、一人一人に対する配慮や目配りの度合いが高まるからだと考え。その他の観点については、英単語や英文を何度も繰り返し聞いたり読んだりする活動を嫌がるのではなく、むしろ好意的に受け止める学生がほとんどであったことは教授する立場ではなによりありがたかった。これはバックワードデザイン、すなわち、目標から遡って活動を設定したことにより、各活動の必然性を学生が認識したからだと思う。また、ペアワークが楽しかったという回答が多かったことから、本学の DP の目的の一つであるコミュニケーション能力の伸長の一助にもなったのではないかと感じる。

3. 今後の授業における目標

高校時代までの英語に対する苦手意識がさらに低減し、英語の学習が楽しいと感じる学生が一人でも増えるよう、必然性のある活動、丁寧な説明、一人一人の学習状況に配慮した授業を心掛けたい。

4. 受講学生に対する要望

インターネットでの映画視聴や YouTube 等による動画配信等により、高額のコストをかけなくても英語を学習する環境は十分に整っています。皆さんには、この授業を一つのきっかけとして、どんな形でも構いませんので、英語の学習を継続してもらえたらこれ以上の喜びはありません。

◆ スポーツ演習Ⅰ（教養）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

進度レベル、授業での説明、授業外課題が不十分な面があるとの指摘を受け、授業の組み立て、スライドを活用した説明、Google フォームを活用した授業後の振り返りレポートの改善を図った。体育Ⅰでは、進度レベル、授業の説明の評価項目が高まった。

2. 授業評価の結果に対するコメント

昨年度より評価が全体的にやや低下した結果となりました。レクリエーションを中心とした学修内容でシラバスを構成しコミュニケーションの向上をねらいました、運動経験の豊富な学生にとってはもの足りなさを感じたように感じています。ガイダンスで把握した学生の運動経験を参考に、ゲームの展開やグループ編成、課題ダンスの提示の仕方にもっと工夫が必要であったと感じています。

3. 今後の授業における目標

楽しく健康に繋がる運動になったという学生の思いを大切にしつつ、学生の運動経験を十分に把握し、ゲームの取組方を改善するようにします。一方、運動が苦手でも意欲的に取り組める学生が一人でも増えるよう、集団でのコミュニケーション力を高められる授業が展開できるよう努めます。

4. 受講学生に対する要望

体を動かすことを楽しいと感じてくれている学生が多くいたことをうれしく思っています。今後も健康につながる楽しい授業を目指します。また、自由時間を作って、好きな運動をする時間があつた

ら面白いという意見をいただきました。なるほどと思います。今後の授業において、前向きに取り入れていこうと考えています。

◆ 音楽療法入門（教養）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

前回の授業評価で指摘があった点（パワーポイントの進み方が早い時がある、見えづらいスライドがある）について改善し、学生の様子を見ながらすすめるようにしたところ、今回は進み方が早すぎるというコメントがなくなった。

2. 授業評価の結果に対するコメント

今回は見えづらい、早すぎるというコメントがなかったことから、授業をすすめるペースは改善されたと思っている。大人数の授業であり目が行き届かず、後ろの席の学生の私語が気になるというコメントがあったため次からは気を付けてゆきたい。

3. 今後の授業における目標

わかりやすく興味深い教養科目を提供できるように最新の情報に常にアップデートしてゆきたい。

4. 受講学生に対する要望

授業の最初に私語はやめてほしいとお願いしている。寝ていても他のことをしていても大教室では教員にはわからないときがあるが、私語は周囲の学びたい学生の迷惑となる。教養科目なので学びの意欲に濃淡があるのは理解しているが、この授業が必修となっている学生もいるためこれからもお願いしたい。

◆ 女性学（教養）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

学生の集中力の持続時間を考え、教える内容と教育方法の配分を改めて意識して授業構成を考えた。教員の説明が90分間続くことが無いよう、個人ワークやグループワーク、Slido(インターネット経由で匿名の書き込みが出来るツール)を用いた意見交流、動画の視聴などを組み合わせ、集中力を持続したままで多くの活動に取り組めるよう配慮した。授業後のミニッツペーパーには、これらの工夫に対する肯定的コメントが多く寄せられた。

2. 授業評価の結果に対するコメント

どの項目の評価の数値も良い結果で、学生にとって満足度の高い内容を行えたようだった。授業全体としては半分ほどがゲスト講師によるもので、授業への工夫や内容などについて改善が必要だと思われることも授業担当者自身では何も行えないため、この授業形式の限界となっているのは否めない。ゲスト講師に依頼する際に留意点を説明するなど、今後の改善につなげたい。

3. 今後の授業における目標

この授業(女性学)は幅広い内容が対象となるので、学生にとっても興味のある、日常生活に根差したトピックを取り上げ、学生同士の意見交流などをもっと取り入れたい。知識伝達型の講義で得た知識を、自らの問題意識とともに考え直し、消化していくような授業回を目指す。

4. 受講学生に対する要望

この授業で一番カギになるのは受講学生のみなさんの適切な受講態度です。意見交流などの時以外では私語をしない、グループワークなど他者との交流が必要な場面では自他理解を意識して積極的に取り組むなど、皆さんの心がけで実りのある授業を一緒に作っていきましょう。

◆ 女性学（教養）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

該当なし。

2. 授業評価の結果に対するコメント

女性学スポット(1コマ分)の担当(講義テーマ:「愛と恋とデザインと」)だったのだが、学生からの振り返りレポートは、全学科をとおして好評価だったことに満足している。

3. 今後の授業における目標

引き続き、教養科目のなかにおけるデザインの位置づけ、役割の重要性をひろめていきたい。

4. 受講学生に対する要望

自立と自律とをうながしたい。

本学の教職員は これからも
学生の皆さんの学びをさらに深めるために
よりより授業づくりへの努力を続けます

学生のみなさん、授業評価にご協力いただき、ありがとうございました。

本学では本年度も、多くの学生が積極的な姿勢で授業に参加し、多くの教員の授業が学生から高い評価を受けました。授業は教員が行うものですが、そこに学生のみなさんが居てこそ成り立つものです。学生にとってより良い授業を実現させるためには、教員による質の高い授業の実施、そして学生の真摯な取り組みと率直な声、それに応える形での教員の授業改善という循環が不可欠です。毎年実施している学生による授業評価とその結果へのコメントをはじめとして、日ごろの授業の中でも教員と学生とで良好なコミュニケーションを行い、大垣女子短期大学の特色を生かした授業を学生・教員ともに力を合わせて作り上げていきましょう。
